

Monto Kaj Neĝo
Monata Organo de Monta kaj Neĝa Clubo.

山 と 雪

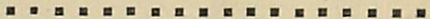
第 七 號



札幌 山 と 雪 の 會 發行

昭和六年四月發行

第七號目次



瑞西山岳會の登山小屋 (承前)

海豹皮カワツクスカ

ゲレンデ・スキー術に就て

全日本選手權大會に臨みて

▲雜 錄

寫 眞

チャチャヌブリ

ニセコアンヌブリ

菅 平

圖 版

グスタフ・クルツク著
山崎 春雄譯

鈴木 重雄

高橋 次郎

〔一〕
〔六〕
〔三〕
〔七〕

アーノルドグブラー

佐藤 信義

三澤 滿

Albert Heim Hütte AM Winterstock

Im Ursenerthal DRI. Sektion Uto S. A. O



チヤチヤヌプリ

アーノルド・グアラ



瑞西山岳會の登山小屋

(承前)

グスターフ・クルツク 著
山崎春雄 譯

七、アルベルト・ハイム・ヒュツテ

Die Albert Heim-Hütte am Winterstock

In den Stöcken ob Realp, Urseren, Kanton Uri.

小屋の位置としてはガレンストックよりベツツスピツツエに連なる多くの岩峰の登攀に向つて最も適當なる地點が決定せらるゝ筈であつた。此の地域は予の良く識る所のものであつたに拘らず其の撰定は中々困難であつた。就中アルブリゲンリユツケの往來頻繁なるルートを避くることの必要が何よりも肝要であつたからである。最初の計畫ではウインテルストックの山腹、頂上の東南に位する岩丘が豫定されてあつた。此所よりはチーフエン氷河グレツチエ及びウインテルリユツケへ困難なしに越ゆることが出来るのである。併し最後に予等は其特徴ある地形と勝れたる眺望の爲に、フルカ國道に近過ぎる缺點を忍んで、二五四六米地點の岩峰を建設位置として決定した。ヒュツテの位置の最後の詳細なる取極めは其の居間の窓よりフルカ峠を越えてワイスホルンの銀冠の耀きを眺め得られる様との希望に従つてなされたのであつた。

小屋への最近の到達路はレーアルプより良き踏痕により北西に向ひ急傾斜の草地をレーアルプ發電所の貯水池に達し、

此所より小屋までは一九一八年九月以來小徑が開かれて居る。此の路は同年七月予が融雪の後に自ら實測したものである

(赤白の標識) レーアルプ小屋間三時間。冬期スキーに依る時はエブネーテン及びオクセンアルプを経二四三三米地點より尾根傳ひに小屋迄。二四三三米よりレーアルプ迄は良好なる滑降地である。(二十乃至二十五分)

ヒユツテよりの登攀はガレンストツク、(南東尾根及び北尾根より) チーフエンストツク、グレッツチユホルン、ウインテルストツク、ロツホベルグ及び其他の素晴らしき岩登りの山々である。峠越えとしてはチーフエンザツテルによりローネ氷河方面に、ウインテルリュツク及びザースベルグリュツクによりゲツシエネルアルプに越えることが出来る。

敷地

一九一八年一月ウルゼレンの村會に於てアルベルト、ハイムヒユツテの爲に八百平方メートルの敷地の無償交附及び通路權、飲料水利權が認められた。帳簿上には敷地の所有權の代りに借地權 "Baurecht" として登記せらるゝこととなつた。是れは村會側の希望であつて兩者の間に實際上には何等差違なき故予も之に異議を申立てなかつた。登記は種々の事情により一九一九年二月に至りアンデルマツトにて行はれた。其の正文は次の如くである。

一、ウルゼレン村會(代表者副議長マイエル)は瑞西山岳會ウト支部(代表者アルベルトハイムヒユツテ建設委員會長

グスターフ・クルツク)に對しウルゼレン村管轄地域内ウインテルストックにアルベルトハイムヒユツテ建設に對する借

地權設定を認可するものとす。

本權利は瑞西民法第七七九條に據り左の條項を含むものとす。

a. アルベルトハイムヒユツテ建設及び其經營に要する土地の面積は約八百平方メートルとす。

b. アルベルトハイムヒユツテへの無條件の通路權。

c. ヒユツテの經營に必要な水利權。

二、前記の諸權利はウルゼレン村會より瑞西山岳會ウト支部に對し無償にて認可せらるゝものとす。

但し手数料及び登記料はウト支部の負擔とす。

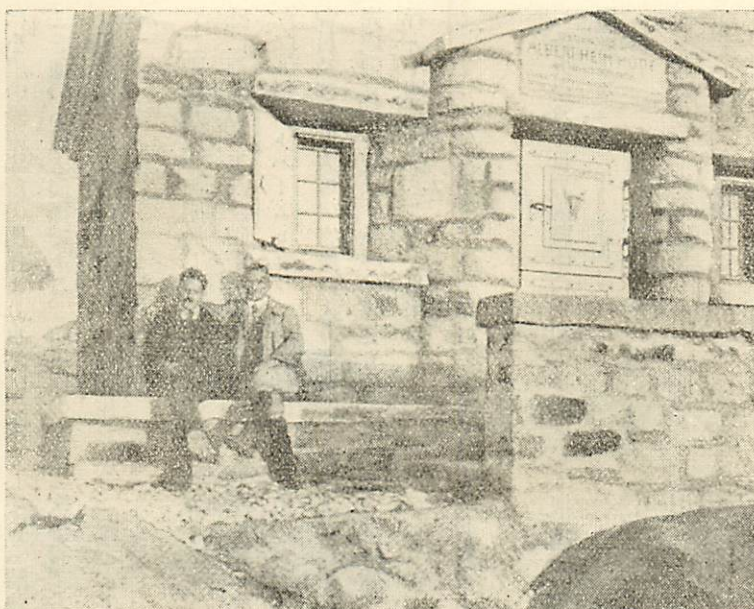
三、契約者の希望に基き本登記にはヒユツテ寄附狀原本に従ひ次の義務を記載するものとす。

a. アルベルトハイムヒユツテの建築上の特性は内外共之を變更することを得ず。

b. ヒユツテに於ては食物の販賣をなすことを得ず又登山小屋としての目的に違反することあるべからず。

設計、構造及び工事の施行

計畫の際予の目的としたる點を擧ぐれば小屋は二階建とし内部を最大限度に利用し、二階に寢床の大部分を配置するこ



と、獨立せる炊事室を置くこと、快適なる居間と之に若干の寢床を附屬せしむること等を主眼としたのである。他の諸點は小屋の設置場所の關係より自然の要求として自ら解決せられた。入口は南面の切妻正面キゼツフロントに在り外扉と防風扉とを有すること他の小屋と同様である。防風扉の左側は炊事場、右側は薪置場となり二階への昇降口も亦此所に設けられた。

居間は十八人分の座席を有し尙寢床五人分を配置してある。居間の窓はフルカ峠とグレッツチユホルンの方に面して居る。

二階は八人分の開放しの寢床と氣の利いたカーテンで仕切られた五人分の婦人用寢床とに分れて居る。すべての工事、殊に細部の木工及び硝子工事は登山小屋としては稀に見る周到なる注意を以て施行された。

アルベルトハイムヒユツテの特性は其が「山の友」の寄附による事である。小屋建設に要したる諸經費は全部ウト支部會員及び其友人等の寄附によりて支辨され支部及び中央會計よりは全然資金の支出を仰がないのである。此の貴き事業の完成の喜びを現はす歡呼の聲とも云ふべき此の寄附狀 *Stiftungsurkunde* を讀む人は此の登山小屋建設の歴史と工事の進行とを明細に知ることが出来る。

アルベルト・ハイムヒユツテ (ウインテルストツク)
海拔二五四六米

一九一八年世界大戰中に平和の事業として地質學の耆宿アルベルト・ハイム教授の名譽の爲に山の友よりウト支部に寄附せらる。

寄 附 狀

ヒユツテの入口の上なる切妻額面に刻まれたる以上の銘は茲に完成を告げたるアルベルト・ハイムヒユツテ建設の意義を明にするものである。世界大戰の波逆卷きて我等の心を惱ましむる唯中に此所に空高く氷河の流れ靜かに迫る岩峰の上に、此の嘆美すべき山岳の世界

に平和の事業が打建てられた。これ眞に山岳への憧憬と熱愛との勞作である。此の事業は又瑞西アルペン研究の書宿アルベルト・ハイム教授の名譽を記念する所のものであつて小屋の命名は其目的を表現するのである。山の友は財を集めて此の建設を完成し今日を以てアルベット・ハイムヒュツテを瑞西山岳會及びウツ支部に贈與するのである。

ヒュツテ創設の歴史

一九一六年カドリモヒュツテ完成の喜びは建設者グスターフ、クルツクをして其の二十年來の宿望なるウインテルストツク地域に於ける新登山小屋建設の希望を再び新に喚起せしむるに至つた。カレンストツクよりベツツスヒツツエに至る雄大なる岩峰の登攀は是非とも登山小屋の設置によりて開發せらるべきもので、今日迄閑却せられ少數の人々にのみ識られ愛されたる此の勝れたる山岳地は小屋の建設により登山家に紹介さるべきものである。

カドリモヒュツテ献堂式舉行の後、彼は直ちに十八人乃至二十人の收容人員を程度とする石造登山小屋の新しき計畫に着手し一九一六年九月今日茲に完成したる設計にまで到達したのである。設計の細個條はハインリヒ、プリームにより、其卓越せる藝術的意匠を以て仕上げられこれによりて始めて今日予等を悦ばす所の美なる形を表現することを得たのである。計畫の根本は登山者をして高山の暴風怒號の裡にも何等の不安を感じせしめざる宿泊所を作り、快適なる室を巧みに配置し、其形は最も單純なる手法により完成せる美を表はすことを眼目としたのである。

ウツ支部が數年に亘り斯くの如き計畫を實施し得ざる財政状態にあり、従つて建築資金は悉くこれを寄附に待つの外なきことは最初より明白であつた。又計畫の途中より彼の念頭には近く七十の高齡を迎ふるウツ支部名譽會員及び瑞西山岳研究の大家の名譽の爲に小屋をアルベルト・ハイムヒュツテと命名する意圖が浮んだのである。

計畫は一九一七年五月ウツ支部の集會に於て始めて發表せられ熱心なる賛成を得た。又支部會員に對する寄附の勧誘狀は豫期以上の好成績を得たのである。發表の日より十二日を経て既に支部長ハンス・フリツクは十二人の山の友の寄附としてグスターフ・クルツクに對し金一萬フランを手交し、ウツ支部會員より成る所の建設委員會を組織して此の計畫に基きアルベルト・ハイムヒュツテを完成し、これを支部に贈與すべしとの希望を傳へたのである。尙寄附者は條件として其氏名を發表せざることを要求した。五月二十五日に至り下に署名する所の建設委員が選出された。但し建築上重要事項に就ては支部幹事も協議に參與すべしとの希望あり六月八日の幹事會に於て之を承認することゝなつた。小屋の命名に就ては委員會はハイム教授の承諾を得た。委員會及び支部幹事の参加の下に建設地はレーアルプ北

方の地域と定められ幾回かの實地踏査の後、ウインテルストツクの南二五四六米地點即ち今日の建設地點が確定された。一九一七年秋ハインリヒ、ブレイム及びグスターフ、クルツクは最後の設計を完成した。

然るに之に對する請負業者の見積價格は豫算額を遙に超過し計畫の實行が危ぶまるゝに至つた。此の報が會員中に傳はるや委員會に對して更に寄附の申込が殺倒し又一方支部會員に對する寄附勸誘狀（ハインリヒ・ブレイムの原書を複製したる小屋の圖を附せるもの）も非常なる好成績を挙げ、委員會は茲に充分なる確信を以て實行に着手することを得るに至つたのである。一九一八年一月、設計はウツ支部に正式に提出されて承認を得、更にグンプの中央委員會に提出、其の熱心なる賛同に迎へられた。

ウツ支部會員の計畫に對する熱誠は爾後尙繼續し、遂に二萬五千フランを要したるアルベルト、ハイムヒュツテの總經理は全く充分であつたのみならず、支部に向つて小屋と共に數百フランの現金が維持資金として併せて提供せられたのである。此の尊き會員の喜捨は永久に寄附者の名譽となるものである。或は資金の寄附により或は勞力の提供によりアルベルト・ハイムヒュツテの建設を實現すべく努力せる所の人々は今日茲に此の嘆美すべき山岳地の開發に役立ち且又ウツ支部及び全山岳會の名譽を表彰する所の貴き事業の完成に夫れ夫れ貢獻したる事を想起して心中愉快に堪えざるものがあるであらう。就中彼等は此の事業により吾人の尊敬する所の學者の名が永久に不朽のものとなれることに最大の満足を感じずるものである。

建築の進行

一九一八年一月十七日、ウルゼレン村會の厚意により、ウインテルストツクの南二五四六米地點に於て約八百平方メートルの敷地、通路及び水利權をアルベルト・ハイムヒュツテ建設の爲に無償にて讓渡せられた。一九一八年三月初旬、グスターフ・クルツク及びハインリヒ・ブレイムの監督の下に工事は開始されたのである。監督者は全工事及び運搬作業を一括してカドリモヒュツテの場合と同様これを一人の請負者に擔當せしめんとしたのであるが此の場合には事情が不可能であつた。大工、指物及び硝子工事は支部長ハンス・フリツクがアドリスウィル機械工場の木工場に命じて請負はせ、工場長ウエツプエル及び職工の手により模範的の出來榮にて納入された。石工事はアンデルマツトの石工團体にて手間仕事として請負ひ監督者の任命したる職人頭ハーゼンフラツツの不斷の監視の下に之亦堅牢、丁寧に施工された。屋根葺工事ハグツシエネンのウイツブリ塗工はアンデルマツトのシムメン、彫刻及び室内裝飾はチューリヒのマイステルの手に成つた。美事なる鍛鐵製の釣り燭臺はツルギのマイエルホーフエル、カーテンはチューリヒ、シヨープ商店婦人部の寄附に係る。設備品は全部チューリヒ、フリツツ商店の納入、炊事ストーブはリントールのフエグリ工場の製作である。（炊事ストーブの詳細は前號カド

リモヒユツテ設計圖參照) 工事中特に困難なりし作業は約二万キロを算するポートルランドセメント五百五十袋、建築用材、指物硝子、柁設備品の運搬であつた。フルカ國道上チーフエンバハ迄の運搬はゴツトハルド守備隊司令部の厚意により軍用自動車を使用し、チーフエンバハにては旅箱レグリの物置を一時材料置場として使用することが出来た。チーフエンバハより現場までの運搬はレーアルプの青年八人、ナーゲル、レンネル及びシムメンの兄弟が周到なる注意と忠實なる義務心を以て此の困難なる作業に當つた。其一人なるペーテル、ナーゲルは小屋番として將來アルベルト・ハイムヒユツテに勤務することゝなつて居る。尙是等レーアルプの有爲なる青年等は九月の第二週に於て他の友人等と協力しレーアルプ發電所の堰堤よりロホタールを經由する新道を開いたのである。此の路は監督者が七月七日自ら實測せるもので融雪の候早く露出する山腹に沿ひ、なだらかなる曲線を描いて小屋に導くのである。尙アンデルマツト要塞司令部付木工長、特務曹長エミル、ヘギーは工事中監督者を助けて事に當り大に功績あることを特記せねばならぬ。

工事進行に關する記録

一九一七年

八月二十七日

建設地第一回踏査

九月二十二日

第二回踏査及び決定

一九一八年

自三月二十五日至七月六日

アドリスウィルにて木工及び金物工事、木部組立、指物及び硝子の假組立

自七月六日至七日

レーアルプ及びアンデルマツトに於て石工、運搬作業及びロホタール路付けの契約取極め、道路及敷地の實測、職人頭に説明

自七月十一日至十二日

木部、金物及び設備の積込、グツシエネン迄の輸送

自七月十五日至二十日

敷地地均し、二五四六米地點西側堆石より現場迄の路付

自七月二十日至廿一日

アンデルマツト及レーアルプに於て打合せ、石工、屋根葺及びチーフエンバハ現場間運搬契約の締結、現場に於て説明

自七月廿二日至廿九日

セメント、木部、器具及び屋根柁の自働車運搬

自七月廿二日至廿四日

チーフエンバハより現場まで人夫による運搬(十日間)

- 自七月廿九日至卅一日 同上
 自八月五日至八日 同上
 自七月廿三日至廿四日 石工開始、岩石爆破、壁石割り、堆石より砂採集、現場迄運搬
 七月廿五日 基礎工事開始
 八月四日 基礎石積完成
 自八月五日至十三日 小屋木部及び屋根上棟、屋根板張及び屋根紙打付、軒蛇腹取付
 自八月十二日至十三日 屋根葺葺
 八月二十二日 同上
 八月十八日 アルベルト・ハイム教授小屋訪問
 自八月五日至二十二日 腰掛、石段、石壁及び煙突積上、石垣築造
 自八月廿三日至九月三日 床石敷、石卓、外壁目地塗、内壁上塗
 自八月廿四日至廿八日 便所
 自八月廿八日至九月十五日 指物及び硝子取付内部仕上
 自九月二日至五日 軒蛇腹、入口扉、窓外側の塗工、雨戸チューリヒ色葺にて塗上
 自八月卅一日至九月二日、六日、九日 設備品、家具及び寝床用乾草の運搬(チーフエンバハ現場間) 四日間
 自九月八日至十七日 彫刻及び室内裝飾、設備整頓、掃除
 自九月七日至八日 ロホタール道付の契約、レーアルプ発電所堰堤導標建設
 自九月九日至十四日 路付け
 自九月八日至十三日 レーアルプ小屋間標識
 九月十五日 工事終了

現場に於ける工事は八週間の短時日を以て終了した。二五四六米の岩角の上に雄々しく屹立する此の小さな建築は高貴なる形式と最も單純なる表現とを具ふること古希臘の殿堂にも比すべき姿を有ししかも高山の静寂の裡の素朴なる登山家の家である。愈のチューリヒの藍白の色章は遠くより喜ばしくも認められ、瑞西、チューリヒ、ウリの紋章は旅人を迎へて輝くのである。すべて此所に働ける者、監督者及び労働者はひとしく皆愛情を以て此の勞作に従事したのである。

小屋の引渡

一九一八年九月二十二日、茲に獻堂式の嚴肅なる儀を執行する日に於て吾人は寄附者の名に於てアルベルト・ハイムヒユツテを此の寄附狀と共にウツ支部及び瑞西山岳會に贈るものである。

寄附者はウツ支部及び山岳會が小屋の建築上の特性を内外共之を變更することなく、飲食物の販賣をなさず其目的に違反せざることの義務を負ふことを希望するものである。

アルベルト・ハイムヒユツテはすべての山岳愛好者の爲に、又單なる人として山に於て自然に歸ることを求むる所の者の爲に役立つべきものである。願くは小屋がウツ支部並びに瑞西山岳會の管理の下に、自由を愛するウルセレン村民の守護の下に、其所に宿るものゝすべての喜びたらん事を。又小屋が其誇りなるアルベルト・ハイムの名を名譽を以て永久に載かん事を。

アルベルト・ハイムヒユツテ建設委員

委員長	グスターフ・クルツク
委員	ハインリヒ・ブレイム
同	ハンス・フリツク
同	ヘルマン・ハウスヘル
同	レオ・ウエールリ教授

アルベルト、ハイムヒユツテの獻堂式はすべての參會者に取て終生忘れ得ざる所の印象を残した。獻堂式の前夜ウルゼレンの空は輝くばかり晴れ渡り、來會者の大多數はレーアルプにて賑かに前祝ひの宴に打興じた。少數の人々はハイム教授を先頭に新しき小屋に集り、こゝに靜なる初秋の夜を過した。

此夜の美しさは驚くばかりであつた。満月の光は皎々として我等の周圍の山影を夢幻の境地に化し、フルカ峠の彼方には月光に照されたるワイスホルンの尖頂が光耀くばかりに浮出でた。早朝參會者の列は新道傳ひに小屋に集まり、儀式の開かるゝ頃は山上には珍らしき大群集が小屋を圍んだのである。ハイム教授、シユレーテル教授及び中央委員會長の祝辭の外に殊に獻堂式の牧師の演説は列席者に非常なる感動を與へた。予に取つてはおよそ山岳に關して、何物が吾人を山に誘ひ寄するかに關して人の語るを聞きたる言葉の中、かくまで立派なものを未だ耳にしなかつたのである。こゝに演者の

許可を得て之を轉載する所以である。

登高の目標と登高行

Höhenziele und Höhenfahrten

アルベルトハイムヒユツテ献堂式に於ける演説

アウレリアン・ロスハルト

來會者諸君、レーアルプ並びにウルゼレンの親愛なる村人達よ。

山は昔より神の選び給へる土地であります。ダビデ王は其詩篇に於て幾十度となく主の山々、祝福されたる山々、主が其の民を聴き給ふ所の山々、主が民に其の壯嚴を示し給ふ所の光榮ある山々と云はれて居ります。王は其青春と喜悅の心を以て山々をたづね、老衰と悲哀とに身を屈めながらも山々の上に其身を運んだのであります。我は我眼を山々の上に擧げん。救けは其所より來ればなり。

山は昔より神の聖なる場所でありました。モーゼスは山上より其十誡をもたらしエリアは豫言者の役目を岩峰の上より受けたのであります。此の舊約の兩雄者はタボールの山上に救世主の光輝に満ちたる啓示に於て示顯せられました、神の子は山々の上に其祝福を豫言せられました。モリアの山上にては我事畢んぬと示され、橄欖山の頂よりして昇天されたのであります。カルツアリア、シオン及び橄欖山の名に全基督時代の最も崇高なる紀念が結合してゐるのであります。

彼の高き山々の姿は幾世の昔よりいかなる最高の理想的感化を人生に及ぼしたてでありませうか。廣い自然の内に於て人が俗世に遠ざかり、神に近づくことを感ずること實に山頂に於けるに如くものはないのであります。アルプスの氷雪フィレンが紅に燃ゆる所其所に敬虔なる靈魂は神をわが美しき祖國に於て感ずるのであります。

諸君。かゝる環境の裡に建築委員諸氏はアルベルト・ハイムヒユツテを建てられたのであります。此の崇高なる山岳の

世界に諸君は實に巧みに小屋を付加へられ、其調和に於て、其の情趣に於て恰も小屋は此の片麻岩の山頂と共に生れ出で共に生育したるが如きものがあります。

小屋も亦神のものであります。我々がこの寶物を神に捧ぐることをこゝに明言するに非ざれば只今申した所の調和も未だ完全とは云はれないと信じます。それが爲に我々は小屋の奉獻の儀を行ふのであります。私は今茲にレーアルプの尊敬する牧師の名と其委任に於て此の獻堂式を執行することを光榮ある義務と考ふのであります。

登山小屋の獻堂式は我々すべてに取りて甚だ意義深いものがあります。多言を費す迄もなく教會が奉獻の儀式を執行する主なる目的は司會者の力強き祝福に存するのであります。又其の淨められたる手によりて之を媒するにあるのであります。我等の捧ぐる祈禱、祝福の爲に切る我等の十字、四壁に注ぎかける聖水の珠玉、これらすべての儀禮は要するに皆唯一の目的に集注するのであります。即ち我等はこれにより登高者の新しき家の上に神の力の守護を下し給はんことを祈るのであります。誰かこの小屋と其宿泊者との上に天よりの庇護なくてはならぬことを疑ふものがありますか。山々の上に於ては實に萬事が無限の大きさに擴大さるゝのであります。俗世を超越せしむる所の印象もさうであります。又すべての危険もさうであります。風化の偉大なる力、墜落の勢、嵐の迅速さ、電光の火、夕立の激しさ、雪の量、これらの自然の巨大なる力は弱き人間の作れるものに襲ひかゝり、怖ろしき戯れを以てこれを弄び、人の力の如何に小さくいかに不充分なるかを感じしむるのであります。

委員長クルツク氏がレーアルプの教會に對し、アルベルトハイムヒユツテの獻堂式の執行を依頼せられたるは誠に深き思慮よりせられたることであり、且又我等加特力住民の感情に深く共鳴する所のものであります。此の地方に於ては如何なる日も必ず牧人と農夫との敬虔なる祈りと共に明け、同じ祈りと共に暮れ行くのであります。かゝる地方に建てられたる此の深き意義ある家と同じく教會の祝福によりて神の加護の下におかんとするはこれ即ち最高、最良なる郷土愛護の一事業であります。

來會者諸君、私はこゝに自ら尋ね度いと思ひます、登山者の家は其の特有なる意味深き象徴を持たないでせうか。元來自然に於ける登高の感情と精神界に於ける高きを求むる情緒との間に何等かの因縁は存しないのでありませうか。

如何にも不思議なるは聖書に於て幾度となくことに明かに記さるゝ如く、神の子が未だ地上を漂泊ひ給へる時、彼は祈りの爲に山々に登り給へりとの事實であります。又不思議なるは四世紀の昔、アルプス南麓なる羅馬領地の守護職、後の教父アムブロジウスの銘記したる言葉であります。すべての偉大なる人々、すべての高貴なる心を持つて人々は山々の上に登れり。神を求むる者、神の使者、大事業の成就者即ちこれなり。

我々は何を山々の上に尋ねるのでありませうか。我々は静けさを求むるのであります。我々は市井の騒音より逃れ出でんと欲するのであります。我々は工業と交通との不安より逃れて山の大きな静寂に入らんと欲するのであります。俗生活の底に沈んでは人は雑沓の間に亡びて仕舞ふ外はないのであります。人はそこに機械の車輪の如くに衝き動かされて居るのであります。この山上に於て人ははじめて漸く己れに歸り、再び自身の思想と親しみを持つのであります。この無限の静けさの裡に、流水の音も絶え、氷河は默然として横はり、岩稜は無言に天に聳ゆるの所に人は自らを一人格として感ずるのであります。靈魂に取りても恐らくはそれが安息と自省との時なのではないでせうか。此の山上に於て我等の職業に對する喜びがよみがへり、日々の戦ひと勞苦に對する生命の糧なる忍耐と克己の力が養成されるのではないでせうか。

我々が山々の上に求むる所のは展望であります、谿谷の狭き障壁に妨げられずに眼を無限のひろきに放つことでもあります。我々がこの山頂に攀登るならば世界は脚下に沈んでしまふのであります。廣い谷も小さく見えます。大都會も小さく見えます。自分自身は最も小さく思はれるのであります。これに代つて我々の靈の眼の前に神の偉大なることゝ力がますます明かに感ぜらるゝのであります。

我々が山々の上に求むる所のは清らかなる新鮮なる空氣であります。天の色の深く澄みわたれること、山々の形の變化とその豊富なる線の美、花の美しさ、陽光の輝き、氷雪の光、詩人コンラード・フェルデナンド・マイエルが其の山岳の歌の

中に歌へる大なる静けき光輝であります。我々はこの有り餘る現世の黄金の耀きに眼を飽かしむることが出来るのであります。鋭き眼光を以てすれば四大の凄まじき戦ひをも乃至は人と夫等との戦ひをも觀することが出来るだらうと思ひます。このアルプスの硬き土くれの世界にてはいかなる僅少の收穫たりとも皆牧人たちの烈しき勞働により己が手の方にてかち得たるものであります。かゝる土地に於て我等ははじめて彼のハルレルの言葉の眞理をさとるのであります。人は自然との戦ひに於て道德的に力強く尊貴となり、満足と幸福とは殊に好んで狭き四壁の裡に居心地よき住家を求むるものなり。此の登高と其目標の爲に登山者は其の根據地、其策源地を必要とするのであります。これ即ち登山小屋であります。こゝに彼等は簡素なる食事に飽満ち、こゝに彼等は危険なる登攀の前に息ふのであります。こゝより彼等は終生忘る能はざる印象を其勞力に對する何物にも換え難き報酬として谷へと擔ひ歸るのであります。

尙私の述べ度いと思ふ一の特別の事柄はこの小屋の入口の右面に刻まるゝアルペン地質學の耆宿アルベルト・ハイム教授に献ずの銘であります。この銘の荷ふ所の名は山岳の歴史の奧秘を探りたること他に比肩すべき人なき登山家の夫れであります。彼は山の美の眞髓をきわめ、或は著述家として、或は教師として其の蘊奥を餘す所なく後進に傳へたのであります。願くは此所アルペンが北海と地中海の分水嶺として天に朝するの所に彼の名に於てこの絶好の紀念碑が不朽に傳はらんことを。

願くはアルベルト・ハイムヒュツテが學術及び道德の進歩の貴き一殿堂たらんことを。この意味に於て私は献堂の儀式を執行するものであります。

ゲンフの中央委員會の希望によりウト支部はアルベルト・ハイムヒュツテの二十分一模型を製作しベルンのアルプス博物館に寄贈した。

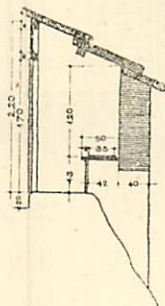
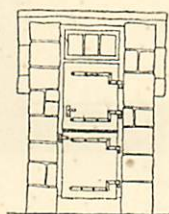
建 築 費

標準備費、登記料	七五一フラン
石工	五、五六一
監督料(職人頭ハ―センフラツツ)	一、五四七
勞働者災害保險	三八九
セメント	一、二五九
アンデルマツト守備隊器具借入	一四一
エミル、ヘギ―旅費	四四
自動車運搬	四〇〇
チーフエンバハ小屋間人夫賃	一、五四〇
大工	二、二一〇
指物硝子工	三、六五〇
木部運搬	一、九〇八
取付工費	三三九
屋根葺	一、〇六九
彫刻及塗工	六七五
設備講入	二、六五五
右運搬	九七
道付及標識	一、二四五
製圖復寫、監督者旅費、寫眞、祝儀等	九八五
献堂式	一、四二九
維持資金	四〇〇
總計	二八、三〇〇

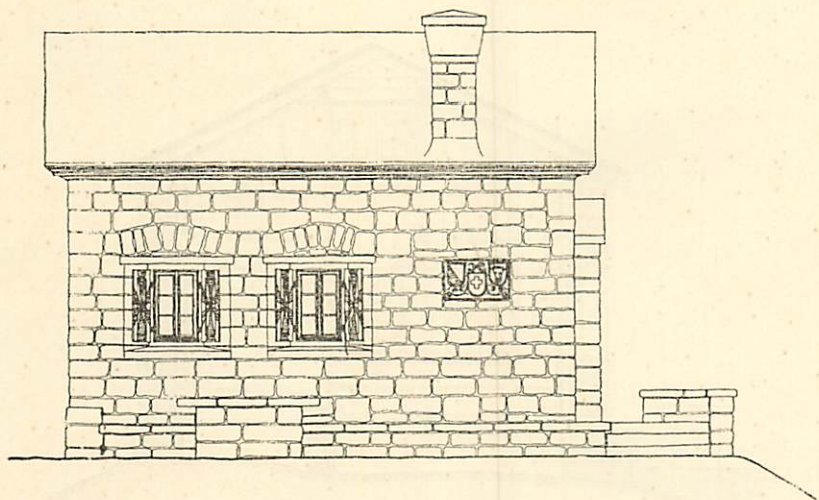
(未完)

ALBERT HEIM HÜTTE
AM WINTERSTOCK
· IM URSERENTAL · URI ·
SEKTION UTO S.A.C
2546 M. Ü. M.

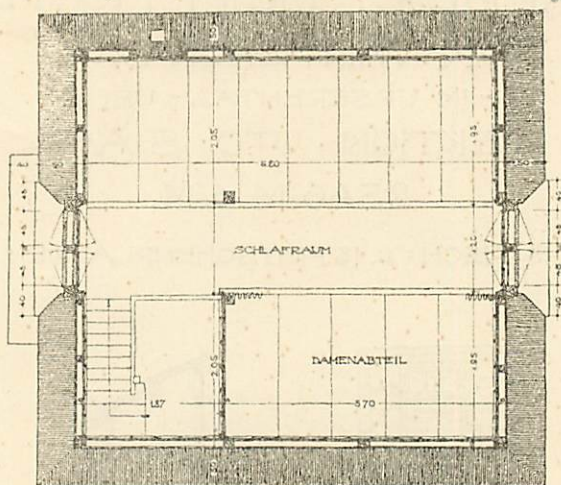
· 18 TISCH- u. 18 PRITSCHENPLÄTZE ·



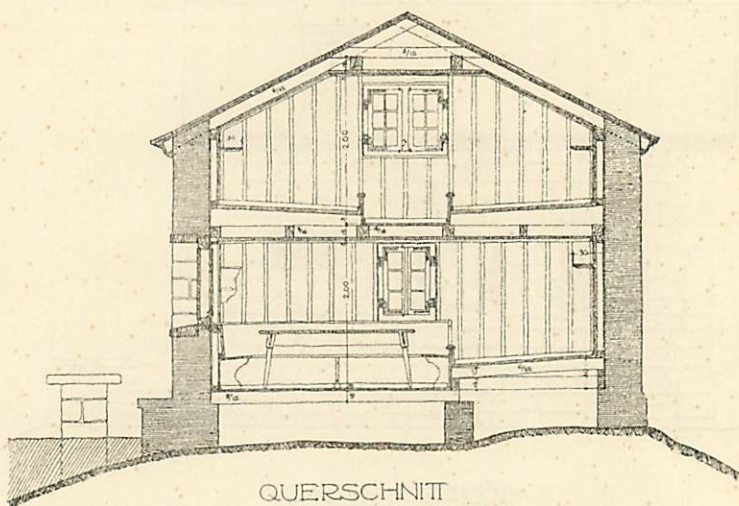
ABORT



SÜDWESTFACADE



OBERGESCHOSS



QUERSCHNITT

海豹皮かワツクスか

鈴 木 重 雄

スキー登山に後滑り位の不愉快な又疲労を増すものはない。海豹皮が特に北海道に於て一般的に使用されたのは、數年來と云つてもよい位の新しいものだ。數年前迄は殆んど全てのスキーヤーはパラフィンを塗つて後滑りを我慢しながら、峰へ峰へと努力を續けたものだが、海豹皮が使はれ始めてからは何回もキツクターンを餘儀なくされた斜面も殆んど直線的に、又ひどくブツシュに苦しめられた所も樂に上へ上へと登られ、時間的に同時に肉體的にその荷が軽減された。此の時間的に經濟化された事は伊藤秀五郎氏が發表されたのによると、海豹皮なしでは一時間に二〇〇米を登り得るが、海豹皮付けては一時間に三〇〇米を樂に登り得るとの事即ち一時間に一〇〇米の差が出来る。斯様

に海豹皮は非常に有利なスキー登山には必需品ではあるが更に短所もないではない。第一にその重さの増加がある。此は海豹皮自身の重さが加はゝるのみならず、更にスキーと皮との間の雪がある。此は或程度迄は防止は出来るが、ごろごろして非常に不愉快な又疲れを増す一因子となるものだ。第二に取付け取はづしのうるさい事だ。殊に吹雪の日に取はづしの時は全く泣かされる事がある。

尙一つ登り下りの澤山ある尾根歩みの時の下りは非常に恐いものだ。併し、長所と短所と相殺しても尙長所は多いが、短所を尙一層少くする事が出来れば是に越した事はない筈だ。先づ取はづしの合理化である。此の事は宇都宮君(北大スキー部)の研究で何れ詳細に發表される事では

うが、ワックスで海豹皮をスキーにはる、皮とスキーの間の雪を取除くと同時に取はづしの點が非常に簡單で、且下りも普通の海豹皮程不安定でなく且スピード的であるし、又軽い事も長所の一つである。

最近ポマードをスキーに付けてシユタイグに効くとの事だが此は筆者には經驗はないが、下りにはポマードを落さねばならぬ相だ。此も吹雪の時は考へものだらう。さてワックスの使方のみで海豹皮同様な登り方が出来て下りもスピード的に出来るとしたら海豹皮の短所を完全に取除き得る事となる。重さの問題、取はづしの問題もなく更に一吋した休息又は晝食の時も直ちに樂しめるわけだから。

此の問題は獨逸・スウキスでも論議されて居るらしい。或る本に若しワックスのみで海豹皮位の結果をもたらす事が出来ればワックスに秀れるものはないが、悲しいかな現今は左様なワックスが発見されぬから海豹皮の方がよい、と結論されて居る。此處に云ふ「ワックス」とは登りは海豹皮同様に後滑りを防ぎ下りはスピードを出し得るワックスの事である。既にノールウエーでは海豹皮は歴史的な存在の一つとなり、運動具屋には影を見せずにスキー博物館

に標本として飾られてあるとか。吾々も亦海豹皮を歴史的な存在の一つとせんと努力を續けて居るものだ。所謂シユタイグワックスは澤山にあるその効能書は實によく効くとあるが、此は賣藥の効能書とよく似て居る様だ。古くから有名なオストバイ製のワックスさへも好く使ひ切れない吾々である。一日一杯を氣温の變り易い山で、充分に効かせる事は非常に困難な事である。此のワックスの使方の難しい事はレースで成功失敗と聞く時にワックス専門の彼等でもしも失敗はある。吾々が常に成功するとは斷言出来ない。比較的溫度の變化に左右されないワックス即ちユニバーサルワックスを登山用として使用したら如何か。

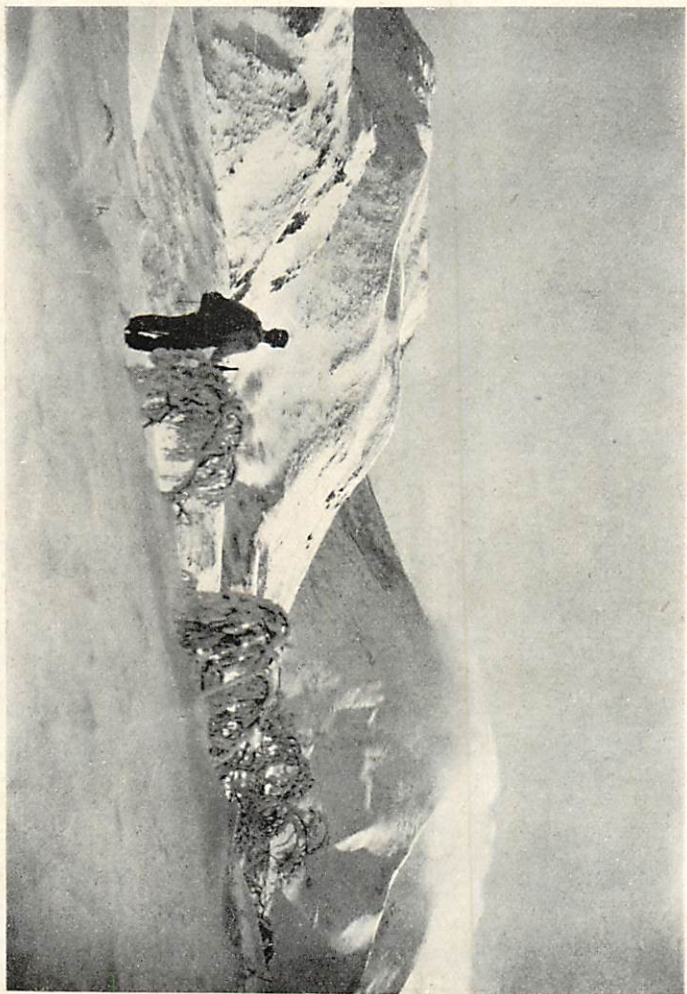
此の代表的なものとしてテントがある。此の液体の方を使つて見たが、登りは成程よく効くが下りはその塗り方の厚さ加減と雪質と一致しない限りスピード的でない。テントは少くとも前晩に塗らねばならぬから、その日の雪質を見る事は不可能である。併し若し下りが滑らない時はテントに付いて居る黒いワックスを塗ればスピードは出るが、山でワックスを塗る事はいやな事の一つである。そこで商賣柄考へついた事は同性質の藥を配合する時はその一つ一

つもの物を使ふ時よりも分量少くて然も作用の強くなると云ふ原則である。ワックスにも同様な事が云へないか、テントにオストバイ製ワックスを配合して俄然成功した。即ち前晩にテントの液体の方を塗り翌日の雪質を見てオストバイ製のワックスの適當なものをその上に塗るのである。即ちテントをグルンドワックスとするわけだ。此で登りはテントとオストバイの例へばミックスと共用して後滑りを防ぎ下りは二つが共にそのスピードを加へる事になる。丁度薬理作用の法則に一致する。又同時にオストバイ製のワックスの雪質に關する原則とも一致して使用出来る。此も今シーズンのみの浅い経験ではあるが、他の海豹皮を付けた同行者と同じに登り得て下りも決して彼等に負けないスピードである事は筆者と共に一緒に行つた人々がその證明して下さる事でせう。併し未だ春のザラメ雪クラスト等に對して最も能率的に海豹皮なしに對抗し得るか此は充分に経験してない。

今後も小さいながらも尙春の雪に對して努力を續けるがスキー登山愛好者の御研究御發表を御願する次第である。

(一九三一・三・二〇 中山小屋にて)





ニセコアツマアリ

佐藤信義

ゲレンデ・スキー術に就いて

たかはし・じろう

一般に、スポーツとしてのスキーには、山岳スキーと競技スキーとの二つがあると言はれて居る。私の言ふゲレンデ・スキーは略々前者に該當する。「ゲレンデ」(Gelände)とは「土地」又は「地帯」を意味し、スキー・ゲレンデと言ふ時には廣義ではスキーをやる所全体を總稱するものであるが、狹義に於いては現行の飛躍シュテップ及び長距離競走ロングトラック等の競技スキーを除外せるスポーツとしての一切のスキーを包含せるものである。故に、練習場、丘陵、高山等に於けるスキー術を總稱せるものをゲレンデ・スキー術と謂ふ。

極く最近まで、高山に於いては、スキーは登山と言ふ目的のための單なる手段に過ぎない、と一般に考へられて居た。そして、高山に於いて杖に頼らずに滑降したり、シュヴングしたりする事は、全然不可能であると考へる人が可

成り多かつた。然しヨーロッパに於けるゲレンデ・スキー術の發達は、最近十五ヶ年の間に四〇〇〇米級の高山を幾回となくシュナイダー、シャウツフエンベルガー、ローゼン等ローゼンの優秀なるスキー家が「杖乗り」せずに自由にシュヴングして (Free jumping) 踏破した事實を提供した。即ちこれは、スキーが登山の爲めの手段であると言ふ従たる地位から脱却して、高山に於けるスキー自身が目的となり主役となつて來た事を明らかに物語るものに外ならない。だが、スキーの大登山には、スキー術スキースポーツと登山の經驗とが兩々相俟つて居なければならぬ。登山の訓練及び經驗を豊富に有して居るが併しそのスキー術が未熟であると言ふ様な人は、冬の高山から離れて、先づ彼のスキーを正しく安全に操縦する技術を學ばなければならぬ。同様に又、雪崩

の智識や方向測定法等に就いて何等の能力もない人は、假令如何にそのスキー術が上手でも、冬の高山に近付かぬ様にした方がよい。そして、夏の間には仲間から登山的訓練をうけなければならぬ。

扱て、此のゲレンデ・スキーと競技スキーとの二者の關係に就いて見ると、兩者を全く縁も由りもないものゝ様に考へるのは、誤りである。ゲレンデ・スキー家は、競技の方面に於ける技術や蠟の研究、忍耐心、闘争心、輕快迅速なる動作を援用する事によつて、その努力と時間とを大いに節約してスキーの合理化をはかる事が出来るであらう。

又、競技スキー家は、高山のゲレンデに於いて涵養せられた確乎不撓の精神、強健なる肉體、確實なるスキー術によつて、晴の舞臺に於いて榮冠をいただくに至るであらう。

人は各々その職業を異にし、その趣味性情を異にし、その住居を異にするが故に、各々その事情に應じて、或は主としてゲレンデ・スキーに志す人が出たり、或は競技に全生命を打ち込む人が出たりするのは誠に自然の理である。

決して、お互ひに輕蔑したり反目したりすべき性質のものではない。競技スキー家が時折神秘なる雪の山々と親しむ

ゲレンデ・スキー家が閑暇を見出して仲間だけの小さな競技を試みる事は、誠に望ましい事であつて、斯かる過程から優秀なるスキー家の生れ出づるのは必然的な歸結であると言はなければならぬであらう。

× ×

次に、ゲレンデ・スキー術に就いて二三の説明を試みる純理論的に言ふと、滑降方法としてはホツケのシユス・フアーレン、廻轉又は停止法としてはクリスチャニア・シユヅングが、最も安定な最も理想的なものである。然し、惜むらくは、之をゲレンデに於いて實地に行ふに際しては事程左様に單純に理論通りには行かない。色々の困難に遭遇する。それは

- (1) 傾斜角度
- (2) 方 向
- (3) 雪の状態
- (4) 速 力
- (5) ゲレンデの不均整

の五要素である。實際には、此の五要素が種々入り亂れて生ずるから、個々の場合に於いて如何なる技術を用ふ可

きかと言ふ事を指示する事は困難である。かるが故に數十年の永い歴史を有するゲレンデ・スキー術が今日尙確定的理論を有せず、一はテレマーク・テクニツクを唱へ、他はクリスチャニア・テクニツクを力説し、又或るものは今日尙ほリエンフェルド式シユトツク・テクニツクさへ口にして居る様な状態を呈して居る。

然し、他方、是等の五個の要素に條件付けられて居る無限の可能性の中に、ゲレンデ・スキー術の主要なるスポーツ的な魅力が存する。斯様に無限に變化する要素の存在する事によつて、スキーには他のスポーツに見るが如き無味單調がなくなる。ゲレンデを滑降するスキーの技術は斯様に複雑して居るにも拘らず、シユナイダー一派のアルペル格式スキー術は、それに對して略確定的なる一般的指示を與へる事に成功して居る。

次に、是等の五要素が「ゲレンデ・フアーレン」Gelände fahren (「山野滑走」に近い意味を有する) 即ち

(1) ゲレンデに於ける滑降

(2) ゲレンデに於ける停止及び方向變換

に及ぼす作用を、時間の許す限り研究して行く事にする。

I ゲレンデに於ける滑降

正規の滑降姿勢と呼ぶに吾々は「メデイウム・ホツケ」Medium Hocke なる術語を以つてする。即ち

(1) 兩足を揃へて均等に荷重する。

(2) 膝及び腰を屈してホツケ躡身ホツケし、身體の重心を低くする。

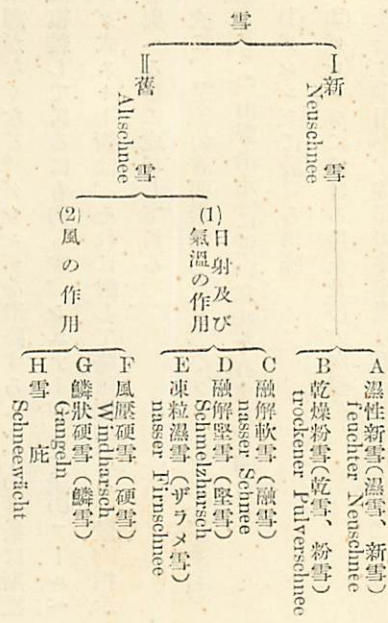
(3) 身體が斜面と垂直になる様に前傾フオワードトウニスる。

(4) 兩腕が膝の高さに於いて、その横に在る様にして、杖の先端を雪面と水平に外後方に開いて保持する。

(1) 傾斜角度が緩になるに従つて、身體を起して直立姿勢に近付き、前傾を少くする。之に反して急傾斜になるに従つて、段々ホツケ及び前傾の度を大にして行つて「最深ホツケ」の姿勢でシユス・フアーレンする。

(2) 直滑降の場合には、斜滑降よりも速力が大であるから、一層深いホツケ姿勢をとらなければならない。

(3) 雪の状態の影響をのべるに先立つて雪質の分類表を示す。



雪が深くなるに従つてホツケを淺くして行つて遂には直
立して一本の狭いシユプールで滑降し得る様になる。

之に反して、雪が堅硬になるに従つて、幅廣いシユプ
ルを以つて深くホツケしてシユス・フアーレンする。

極めて深い雪の中ではスキーが左右に搖れて角が付き始
めて不安定であるから、ホツケを深くして膝を密着させる
此の方法は又融雪、表層堅雪時にも有効である。

平滑に凍つた堅雪の上では、兩足を揃へてスキーを並行
に、幅廣く開き、深いホツケで滑れ。

硬雪、鱗雪、シユプールで堅められた斜面、硬く凍れる

森林小途等に於いては、兩足を廣く開いて深くホツケして
滑れ。然し斯様な場合には多くシユス・フアーレンが出来
ないのが常であるから、ブルীগ又はシユテムの姿勢をと
つて滑降し何時でも容易に方向變換を行ひ得る様に準備し
て置かなければならない。斯うして滑降する事によつて、
此の呪咀すべき雪質も餘り恐怖するに足らなくなる。けだ
し、スキー滑降の眞の幸福感、粉雪中の容易なるシユス
フアーレンのみに存するのではなく、又出来るだけ冷靜な
る安易なる動作によつて諸種の難關にうちかつ事にも存す
るのである。

従つて、吾々は斯かる惡質の雪をも輕蔑する事なく、そ
こでも亦スキーをなし得る様に練習して置く可きである。

斯様な場合に、速かに、確實にしかも面白く滑り得る可能
性は、ホツケと言ふ新しいテクニツクの中にひそんで居る
しかも、此の新しいテクニツクは高山に於いて發生したも
のである。と言ふは、高山には悪い呪咀すべき雪、苦手と
する雪が多く存するからである。

(4) 速力が小となるに従つて身體を起し、速力が大とな
るに従つて次第にホツケの度を深くせよ。

粉雪時の最大速力の時には、一方の足を少し前出するが、體重は絶対に兩足にのせ、膝を密着し、ホツケを深くし、前傾を充分に強くしなければならぬ。

(5) ゲレンデが均等であり障物物がなければ直立してでも滑れる。之に反してゲレンデが凸凹し障物が多ければ多い程ホツケを深くしなければならぬ。

急斜面と平地とを接続する凹接地通過の時には、最も深くホツケして身體が前方へ投げ出されるのを防ぐ。此の時一方の足を少し前出させる事もあるが、しかし衝撃は兩足で受ける。

平地から急斜面への凸接地通過の時には、一瞬間身體を少し起して前傾の度を増すと同時に深いホツケを採りさへすれば良い。

ゲレンデの雪波の谷の前では一方の足を少し前出して深いホツケで行き、谷の中では最深のホツケをとる。そして逆斜面を登る時には極端に身體を後傾し、雪波の峯を乗り越える時には再び身體を前傾させて斜面と垂直にする。

此の迅速にして極めて強い前傾及び後傾、體重の前方及び後方への移動はゲレンデ・フアーレン中で最も難しいもの

である。特に逆斜面から峯に移る瞬間には兩足を以つてゲレンデの雪波を極めて強く『踏み附け』る。此の時身體が幾分伸びる傾向がある。

所が、速力が大になると此の踏み附けが不可能となり、空中に投出されるより外に致方がなくなる。その時には、空中に於いて出来る丈前傾を強くして、着陸時に身體が斜面と垂直になる様にして置かなければならぬ。

II ゲレンデに於ける停止及び方向變換

是の事に就いては、時間がなから省略する。たゞその結論の輪廓に就いて述べる。

万能なる方法は、クリスチャニア・シユヅングである。

クリスチャニアは唯一種類あるのみであつて、身體の振動を利用して足の力によつて廻轉する。而して摩擦が大なる時にはシユテム(制動)を加味し、摩擦が小なる時にはシエーレン・フォルム(鉞形)のみで間に合ふ事になる。

前述の五要素の影響を左に概括して置くに止める。

扱て、實地に於いて、是等の五要素は相互に複合して作

ゲレンデに於ける各種廻轉法使用上の指針

廻轉法	五要素	傾斜角度	方	向	速	力	雪の狀態	ゲレンデの地形
クエーア・シユエナルング	急になる程容易	主として大谷廻	谷廻	小 速 力 (抄くとも中速力)	軟 か な 雪 (融解堅硬は藥物)	表層堅雪の急傾斜面、及び逆廻	斜面の急傾斜面、及び逆廻	
グリツセ・ホ・クリスチヤニヤ	急になる程容易	主として谷廻又は最大傾斜線か、山廻はシエールン最大傾斜線はクライム谷廻はシエールン	谷廻	中速力だけに限る 如何なるも テ 力 能	厚く破れる以外は堅雪、及び粉雪、軽い粉雪	隆起、凸凹の多い斜面	隆起、凸凹の多い斜面	
クリスチヤニヤ	急になる程容易	主として谷廻	谷廻	大 速 力	深変化する雪、均質の粉雪、均質の重粘雪、及び軽い雪	平坦なる斜面	平坦なる斜面	
シエールン・ホーグレン	緩傾斜(急になる程困難)	主として谷廻	谷廻	大 速 力	深い均質の粉雪、均質の重粘雪、及び軽い雪	平坦なる斜面	平坦なる斜面	
テレペーカ	緩傾斜(急になる程困難)	主として谷廻	谷廻	大 速 力	深い均質の粉雪、均質の重粘雪、及び軽い雪	平坦なる斜面	平坦なる斜面	
シエールン・ホーグレン	急になる程容易	主として山廻	山廻	極大速力	平清なる堅雪、硬い雪、及び浅く軽い雪	平坦なる斜面	平坦なる斜面	
シエールン・ホーグレン	急になる程容易	主として山廻	山廻	極大速力	平清なる堅雪、硬い雪、及び浅く軽い雪	平坦なる斜面	平坦なる斜面	
カムトローチン	中位の傾斜度まで(急になる程困難)	如何なる方向から	谷廻	中速力	表層堅雪、堅雪、雪及び激變する雪	隆起の多い斜面	隆起の多い斜面	
カムセツツエシ	極緩傾斜(急になる程困難)	如何なる方向から	谷廻	極小速力	表層堅雪、堅雪、雪及び激變する雪	隆起の多い斜面	隆起の多い斜面	

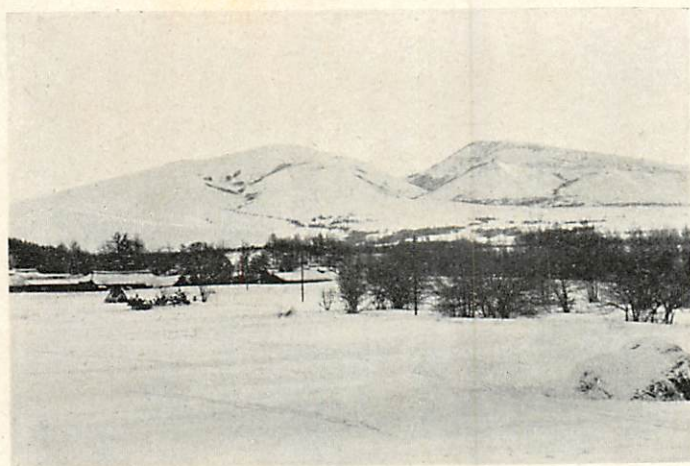
用して、前述の規準を強めたり弱めたりする。例へば、急斜面に就いて述べた規準は、堅雪によつて益々強められ、深い粉雪によつて益々弱められる事となる。

此の無限の多様性の中に一方ゲレンデ・スキー家の難關が存する。が、それは他方スキーの盡きざる魅力の源泉をなして居るのである。(札幌放送局に於て放送)



宮前スロープより太郎スロープ南面を望む

三 澤 満



太 郎 ス ロ ー プ

三 澤 満

全日本選手権大會に臨みて

二月十七日午後六時札幌商工會議所會議室に於て、豊原に開催の全日本スキー選手権大會出席の諸氏を招じスキー座談會を催しました。當夜の出席者は北海道選出の選手其他大會出席の

箕輪正治、秋野武夫、本間四郎、小野寺將、村井延雄、關口勇、長田光男、葛西儀四郎、高橋次郎（小樽高商教授）
南留三郎（札幌商業教諭）、錦戸善三郎（札幌第一中教諭）、高野重一（北海道廳員）

此の外に道廳の宮下利三の諸氏並に本會の

大野教授、柄内教授、廣田戸七郎、高橋昂、長野寛

大野教授 一寸御挨拶申し上げます。今般山と雪の會で一夜スキー仲間のお集りを頂きたいと思ひまして殊に先般の樺太の大會に御出張なさつた方々を中心と致しまして或は其の關係の方々のお出を願ひました處が御多忙にも拘らず、或は又小樽方面から懇々高橋先生を首として御蔭會下さいまして寔に有難う存じます。

山と雪の會は御承知と思ひますが恰度先年迄山とスキーの會が北大のスキー部が中心になりました「山とスキー」と云ふ雜誌を發行して居つたのでありますが學生の仕事と

して到底堪え得られないと言ふ事で廢刊してしまひ、其後形式が全然變りまして「山と雪の會」と言ふ會が組織されてまして昨年十一月の初旬から山と雪と言ふ雜誌を發行してゐる次第であります。

其處で實際スキー王國と謂はれる北海道と致しましても慙ふ言つた雜誌がどうしてもあらねばならぬと思つて居る次第であります。

北海道は人口三百萬に近いのでありますが、近年非常にスキーが盛大になつて参りました、唯今では何萬人スキー

に乗つてゐる人があるか正確な數字は解りませんが、
どうしても、近き將來に於て五十萬或は百萬近くもスキー
を穿く人が出るだらうと思ふのであります。

それは云ふ迄もなく北海道が位置的關係から致しまして
スキーに最も適當して居るからであります、山と言ひ雪
質と言ひ、蓋し本邦に於て理想的の所であると一般が認め
てゐる處であるばかりでなく、吾々が各地のスキー場を見
て参りましたも實際左様であると思ふのであります。

で私共スキーの奨勵家と致しまして、どうしてもスキー
を奨勵するには先づ一般にスキー術を弘めなければならぬ
と云ふ考へからして先年來山小屋、即ちヒユツテを澤山造
りまして實際の奨勵もし自分達も滑つてゐるやうな次第で
あります。

御承知の如く近頃スキーヤーの多くなつたことは實に夥
しいものであります、同慶に堪えぬ次第であります。

今後私共は一般山方面ばかりでなく競技スキーを盛大に
しなければならぬと思ふのであります。

凡そ人間の生活に於きまして、この競技といふやうなこ
とがなかつたならば精神的にも又肉体の組織に於ても緊張

を缺いてしまふのであります、スバルタの時代からこの
スポーツといふものは絶えずに益々盛大になつて参つたと
云ふことは畢竟この所以に基くものであるからであります
スキーに於きましても單にスキーで走る、或は山を享樂
すると云ふことだけではスキースポーツとしての眞の意義
に於て完全してゐるものでないと思ふのであります。

それ故に山方面の享樂中心のスキーと共にこのスキー競
技と云ふものを發展させなければならぬと痛感してゐる次
第でありまして、札幌に居りますスキー競技界の第一人
者である諸君を今晚この席に御參會を願ひまして、或は樺
太に於ける全日本大會を中心に、或は本道に於ける將來の
スキー競技といふやうな方面の事業に就て色々と御説を拜
聽することを得ましたならば本道のスキー發展のみならず
日本のスキー界のため幸ひの事と思ひます。

私共は近き將來に於て、日本でオリムピック大會が開か
れると云ふ事を切望して居るものであります、最近の紙
上でも其の實現運動を聞いて居ります。さうなつた場合に
於ては一層本道に於けるスキーの仲間は覺悟せねばならぬ
事と思ふのであります。

どうか今晚はスポーツマン的に、御馳走はありませんけれども、其の點は御容赦下さいましてゆる／＼スキーのためには御挨拶あらんことを切にお願ひ申します。實は私風邪をひいて頭痛して居りますが、押して本夕の會に挨拶をしなければならぬと思ひまして出席致し、特にストーブの傍で眞中に入れさせて頂きましたやうな次第であります。

従つて徹底しない點は容赦下さる様お願ひ致します。

之を以て開會の挨拶と致します。(拍手)

廣田 一寸今晚の座談會の進行方法に就いて簡單に申上たいと思ひますが、普通に見るやうな座談會の形式を探らないで、竟り座長とかさういふものなしに何處からでも質問を出して、そしてそれに對して皆さんの御意見をお互に述べて頂くといふ方法で進行したいと思つて居ります。

例へば先達の樺太でのワックス問題が出たとしますと、それに一時間も二時間も費すことになるかと一寸困りますから適當な時間でその邊を私の方で斟酌して話題を轉換したいと思ひます。

併しなるべく退屈しても可なり深刻な問題に迄私共の立場として全日本のスキー界を動すといふやうな立場に於て

そして日本のスキー界を論ずる意味に於て皆さんの御高説を拜聴したいと思ひます。

で先づ餘りその話が先に入りますと解らなくなりますが、糸口が六ヶ敷いので御座いますが、その糸口を何處からか御出し下さいまして、そして追々花を咲かせて参りたいと思ひます。どうぞ左様お含みを願ひます。

宮下 それでは先づ第一に全日本スキー大會を開催するに當つて樺太で行ふといふことは全体的に考へてどう云ふものです。行つて来た方の感想を先づ承りたいですな。

廣田 樺太は大會地としては北方に偏してゐるといふ嫌ひがあります、殊に今度も内地から来た選手が、あの宗谷海峡で兎に角船で二日も三日も悩まれたといふ事などもその弊として擧ぐべき點で、之は要するに交通不便の結果と思ひます。

この點からして恐らく何處の人に聞いても樺太を良いといふ人はない様です。

栃内 竟り絶對的否定といふ譯ですね。

高野 左様な交通不便な樺太を選んだことに對しては聯

盟の責任を問ふべきだと思ふ。さういふことは初めから解つてゐるから樺太を選んだといふことは問題だと思ふ。

廣田 さうなると去年の十月の代表委員會の問題に自然及んで來ることになるが代表委員會の模様は高橋君が一番精しい。

高橋さん、君、どうです。

高橋 代表委員會の内容といふことになる。成る程私は代表委員會に出まして今回の第九回の全日本スキー選手權大會は日本のオール選手權を決定する重要な大會であるからして、それで非常に交通不便な且つ不安を帯びる樺太は第一に不可ない、それから費用の點からしても全日本の選手を出すに就いて出易い所として札幌を挙げたのです、尤も持廻りする前例からすると樺太の順序であるが、さういふ前例を破る爲に殊に重要な大會でもあるから、今年は札幌でやつて貰つて來年は樺太でやつて貰はれないかといふのです、處が樺太側は頑として聞かない。結局多勢で樺太に定つたのです。

一体この各地の代表委員なるものは正直の處去勢されたやうな感じがするといつてもよい位である(笑聲起る)だ

から、眞にスキー其のものに就いて考へる方が少ないのは遺憾です。

併し青森の吉岡さんなどは極力札幌説を主張されたのですが、今迄はさういふ例になつてゐるといふので結局樺太になつた。

それならばといふのでオリムピック大會への豫選會を大鰐が札幌で行つてはといふ案を出した處が、それちや樺太といふことが分れば誰れも行く者はない、可愛想だから高橋君默認して呉れといふから私は默認し、樺太に決つた譯です。さて樺太に決つたが大泊と豊原と何れにするかといふことが其の場合に非常に問題になつた、結局大泊と豊原兩方を會場候補にして投票するといふ事になつた。處が兩方共手前味噌を並べる一方地方的觀念の薄い人もあつて知りもしない豊原に投票した。

そしてその差といふものは僅か五、六票に過ぎなかつたそこで實際豊原に行つた人は、行つて見て豊原よりも樺太としては大泊の方が競技場としてよいといふことが初めて眼に付いた譯です。

さういつた譯で會場が定つたのです。

高野 一寸問題に觸れないかも知れませんが一体内地の各団体は北海道を無視するやうに思ふ、併し北海道は雪のコンデーションもよしスキーに適してゐるといふことを認めて居る、殊に相當優秀な選手も多いのであるから、若し北海道で札幌か或は小樽で開催されたならば北海道の選手が多く入賞するだらうといふやうな關係から北海道で開催するのを嫌つてゐるのではないかといふ風に僕等は感ぜられるのですが、そんな嫌ひがありませんか。

廣田 そいつは僕はないと思ひます。

高野 併し聞く處に依るとインターカレヂも札幌でやるについてコンデーションが札幌がよいと認め乍ら他でやるといふやうなことを耳にするが、さういふことはなきにもあらずだと思ふ。

宮下 インターカレヂとオールジャパンとは違ひます。

あれは自身自身で開催する力がないから相當大きな後援がないと仕事が出来ない、それで自然後援の多い處へ行きたがるのであるが、それと之れとは話は違ふと思ふ。

高橋(昂) 兎に角同じ樺太でも豊原より大泊がよいですな。

錦戸 さうです。

宮下 それぢや惜しいことをしたね。

栃内 どれ位大泊には雪がありました。

錦戸 一尺位です。

高橋次郎 何せ地形が全然違ふ。

大野 開催の場所を定むる場合は會長から土地の解つてゐる——スキーの解つてゐる人を詮衡委員にするやうにすれば一番正確に行くんですな、専門委員會ですな。

今後さういふやうな方針で若し例年さういふ風になれば否さういふ風にした方が公平ですな、さうでなく唯票數なんかで定めるといふことは、おかしいことです。竟り權威ある人に詮衡して決めて貰ひ夫を票によつて定めるといふ風にしたいいものです。

宮下 さういつては悪いかも知れぬが全日本の競技としてスポーツは娛樂としての程度のスキーをやつた人が多いから本當に競技的スキーの出身が少い。

僕等も學生時代に會議に行つても具合が悪かつた、そして祭り上げられた人が多い。

高橋昂 今のお話で僕はこゝにいふことを考へます、代表

委員會は十月十七日に定つたが十月十七日に集つて小樽とか札幌に開くといふことに決定されてその以後に於て全日本に於ける準備を開くといふことは時期が遅い。

その意味に於て代表委員會は全日本のスキー大會の終つた翌日開催されるのが本當でないかと思ふ。

この代表委員會の會議は大會の後に、何を意味するか、折角多額の旅費を出して各代表を送り出して收穫を得ない秋よりもレースを見て收穫を得た後がよいと思ふ。

秋に開いた場合は競技の内容の不備その他氣付く點も多し自分が痛感した時に直ぐその翌日忘れない中に開くがよいと思ふ、夫から今の代表委員會の席に出た人であつても競技會を絶対見ないといつてもよいので折角さういふ會を催し乍ら役員をしないといふことは自分の會を育てることゝか非常に全日本を可愛がる氣持がないと思ふ、どうしてこの會議は大會の終つた翌日やるといふことは競技の内容容理解の上に最も必要なことです。

來年は是非さうやつて貰ひたいと思ひます。

大野 それでよいと思ひます。

宮下 今のやうな會議は私達が關係して二回あつた。大

會の終つた直ぐ後でシーズンは十月で二回あります。

廣田 そいつは僕が今迄主張した處です。

高野 さうなるとルールの不備な點なんか直ぐ解る。

高橋昂 併し代表委員が直ぐ集ればよいがね。

高野 本部から役員が來ない。廣田君と麻生君位出たんでは何にもならないと思ふ。

南 だからこの次からは大會の後に打合會をやるといふことにしたらよいと思ひます。さうすると皆んな出られるしね。

さうしないと代表役員會なんか本當の代表委員會にならない、さうしないのは不思議と思ひます。

大野 さて今後の開催地のことはどうです。

宮下 將來どんな風になつて、——今のやうな成行で行くでせうか。

高橋昂 それを如何にするかといふことは別に決つて居らぬが、他の各地方の團體が段々自覺してもつとよい方法を考へなければならぬと思ふ。

南 さうなると唯今では利害關係とか投票権とかいふやうな勢力といふ意味で決定されるやうに承りましたが、さ

うすると慙う云つた私共は恵まれた本道の各団体はもう少し何と謂はふか熱を上げて有力な勢力を完全につけるより方法はないかと思ふ。此處に大會を開くとしたならばその地方の團體に勢力がなければいかぬといふことになりませぬ。

廣田 それは勢力といふか——投票權といふか代表委員會に出席しなければ駄目だといふことです。

言ひ換へれば聯盟に澤山金を納めなければ駄目だといふことです。

錦戸 結局金の力ですな。

宮下 貧乏では泣寝入ですな。

(笑聲起る)

高橋次郎 併しスポーツが金で左右されるやうでは駄目ですな、モウ少し權威あるものにしなければならぬ。

南 それでは北海道がコンデーションがよいといふことを宣傳するより方法がないと思ふ。

高橋昂 併し現在は先刻言つたやうに利己的といふことが頭に入つて居つて日本全体といふことを考へない。

宮下 私非常に不思議に思つたのは、私は走つて居つた

經驗から北海道の走る選手で非常に有望な人達が皆んな樺太で失敗したといふことは日本中で皆不思議に思つたと思ふが、今晚此處に出場された選手の方がおいでになるからどういふ處でもつて本當に苦しんで、そして失敗したかといふことを少しづつでもよいからお聞きしたいと思ふ。

廣田 南先生はコースを逆にお巡りになつたさうですが御感想を——。

南 偶然私はその前の日に巡つたのですが、

向ふの知人に聞くと前年は南北のコースであつたのを今年は東西に探つた。併し地圖を見ると偶然南北にコースを取つてゐる。五十キロを六時間半ばかりで歩いて來たが、何といはうか雪の少ない關係も御座いませうが、人工的に造つたコースは非常に長い間であつたといふことは十何年來大會毎に、人工的に造つたコースもあらうけれ共、今度のコース程非常な金をかけて五十キロの中間に幅二間位長さ約二キロ位の高い所の樹を伐り開いて殊に一尺から二尺位の材木を伐り放してコースを作つたといふことは恐らく今迄にないことと思ひます。随つて選手の方は非常に苦心

されたと思ふ。コースを通るには困難と見えて例へば中間から後にあつた上りは私達素人に非常に時間と距離を費すのに比べて折角長い時間降りて上つたのをいきなり急に斜面を滑降させてしまつてゐる。

あゝいつたコースを作るといふことは實際私達山に行くものは全く反対意見を持つ。

それから選手の方に走りましたお話を承りましたが何でも五十キロのコースを一遍も見ないといふことを聞いた。

結局見た人はよい記録を出せないといふ面白い話を聞いた。それでコースは難コースで一遍通ると障壁物が氣になつて思ひ切つて通れない不自然なコースで一言にして云へばコースに適してゐないといふことを思はせると思ふ。

尙コースはひどい木の株があつたり上から見てシャンツエが出来てゐたりした。

高橋昂 私は豊原なら皆さんより比較的知つてゐるからといふんで豊原へ行つてから急にデイスタンス係長に祭り上げられた。それから案内されたのでなく一人で歩きました。

私の困つたことは今年には樺太は例年がない雪のない年で

した。ほんとうに雪がないといつてよいのです。そのないところを軽迂りするので遮二無二——それに樺太特有のロスケワラが邪魔するそれと根株です。それから風この三つが樺太のコースを荒らす、風は泥を運び、障壁物はロスケワラと木の株です。それがスウィング出来ないやうな間隔にある。殊にロスケワラは性質が悪い。

此の上を走ると、ワラにスキーが抜つて、なかに入ると脛まで觸つて絶対迂らない。

レースコースはカンジキで踏んであり、ステックを突けばツル／＼とロスケワラの中に這入つて終ふ仕末であつた。それと今一つは走路委員の人の中にはデイスタンスレースをやつたことのない人がコースをつけたと見える。實に無理なコースを採つたのであります。ですから南さんも仰つたやうな三十度とか二十五度の連続的傾斜を作つた。

その下が面白いことにはそれだけのスピードで行けば約四百米位向ふへ行けるのです。それを行かずに折角のスピードを全部殺すやうなコースに出来て居つた。それと唯今自然の雪が少ないために杖がつかれないといふことでした。宮下 ロスケワラといふのは一体どれ位のものでした。

高橋昂 とても頑丈なものです。芦の幅の廣いやうなものです。

秋野 標識が少かつたやうですな。

高橋昂 その前にキャラメル旗を使ふといふのでしたが、それもよいが樺太は非常に風が強い、それに苟も全日本であるから布の旗を使つてあつた、一反を横切れに切つた、その布はとても廣く地が厚い、そのために幅が廣くて短い。しばらくと遠い地點から見ると黒く見える。

太陽の光線の關係で畑が全部褐色、そのなかに褐色があるため標色が見えない。走路委員といふものがレースの内容を知らぬ皆學生だから、今一つは標識の位置に氣をつけられないものか、コースから約四米突か、五米突離れたあさつての方に植ゑられてそれも肝心の線に置いてない、割合に上の方に置いてゐたのです。

錦戸 標色が雪の中に赤い布であると思へるのですが、さうでないから見えないので行き過ぎてしまふ。あの當時は行き過ぎてしまつた方が多かつたです。

箕輪 登りは少し位時間がかゝつても探すが下りは探すが暇がない。

秋野 上を見ては迂られないから

宮下 標識だけは下へすべつてゐる時にも絶對的に必要だ。

栃内 すると絶對的に悪いコースでしたな。

錦戸 そこへ行くと樺太の選手だけはよく知つてゐるか
らヒヨイ／＼と曲つて行く。

高橋次郎 樺太の選手は地形を知つてゐるからですよ。

秋野 火防線を飛ばして急にバツと曲つて行くあたりは慣れてゐた。

錦戸 それと僕の氣のついたのは中學生を走路監察員にしたことは非常に選手に不安を與えたと思ふ。そしてそれが訓練されてゐない。

高橋次郎 標識を使つてつまらない處に人を置かないでもよいと思ふ。そして肝心の曲り所に居らない。そして曲つてから呼ぶのだ。

錦戸 だから僕は怒つた。

恰度小樽の火防線のやうな處に交通巡査のやうにして手をあけて居られるととても氣持がよい。

南 それから監察員の立つポイントの位置が悪い、下に

立つてゐる奴が上の變な處に立つてゐたりする。

高野 何せ應援のために役員になつて居るのだからさ。

宮下 知らないためにやつたのだらう、態々やつたのではないでせう。

南 地元の選手の應援のつもりで案内を些つともしないんだ、だから皆んな憤慨してゐた。

錦戸 大泊の齋藤なんて下からシャンツエの下まで代るく後でみんなついて居つた。

高野 だから地元の選手は有利と思ふ。

錦戸 前に栗谷川があるから抜けくくと叫びながら應援して居た。栗谷川は標識を見失つて道を間違つた。あれが十八キロであゝいふことをした人だから五分位は違つた。

某 そんなことをして途中で腹を立てゝは駄目になる。

高野 早稻田の岩崎君は、ブツシユの中で轉んだ。

南 私はこんなことを考へた。向ふへ行つてコースの選定の善悪といふことは選手の技倆を發揮出来るか出来ないかといふ事ともう一つはスキヤの將來の發達に非常に重大の意義あると思ふ。之等のコースの選定といふことは役員直接コースの選定だけはその道の權威者で、尙夫等の設備

―標識―監察員といふやうなことは是非經驗者がやつて頂きたい。

之等は素人に任せべきものでないといふことを泌みく感じて來ました。將來若しも慫ういふやうな意義ある大會を催す際にはさういふことにしたらよいと思ふ。随つて恠ういふやうな權威ある大會に優秀な選手が道を迷つたといふことは獨り本人の不注意ばかりでもない、役員にも責がかなり多いと思ふ。

高橋昂 夫から僕等が見物してゐて憤慨したのは最後の電話のあるポイントから最初の青森の山田、法政の山口の二人が眞直ぐに曲る所で下つて了つた。

後で聞けば監察員が、二人が見えたので報告するため電話口に行つた。

眞直に下るべきでない處を眞直に下りた、その後を岩崎君が監察員が眞直にといふたので間違はずにゴールに入つた。

あれなんか主催者側に文句つけたら問題になると思ふ。併しあそこの地形から判断すれば選手も悪いと思ふ。距離は五十キロで標識が見えないといふことがないと思ふ。

標識を見ないで行くといふことは選手が悪いと思ふ。

尤も親切が足りないことも役員側にあるが——。

南 コースの事で役員にお考へを頂きたいと思ふ。それは外國のやり方をそのまゝやつてゐるやうな傾向があるんです。

尙コースの發表といふことが粗雑のやうに思ふ。ことに日本の現在の選手には地圖を理解する能力がないと思ふ。權威あるコースを發表するには少くとも前日か——竟り地圖の判斷に餘裕を與へるやうにして貰ひたい。

コースを發表するには、出来れば地圖二万五千分の一位の詳細圖で發表し、それに對して断面圖を發表されたならば、それによつて殆んど大會に出る前に分ると思ふ。

現在五十キロのコースは選手は分らない處に坂があつたといつてゐる。この事は將來に於て大會にやつて頂きたい尤も二万五千以下の詳細圖は出してゐるのに全然分らないといふのは、それは選手が幼稚と思ふ。此の點は是非やつて頂きたいと思ふ。これ等が設備してあると間違ひといふことは非常に少なくなると思ふ。殊に今度の大會の五十キロは詳細圖で發表したコースと實際のコースは違ふ。

高橋昂 それは僕も承認します。

秋野 實際と地圖と違ひます。

高橋昂 略圖です。之は三分のだといふけれ共出來上り三分の一だ。

秋野 火防線を入れて呉れよばよかつた。

宮下 全日本で五十キロといふやうな大きな大會に断面圖を入れないといふことはなつてゐない。

高橋昂 断面圖も實際の断面圖は駄目と思ふ。

四キロに對して四百米突——即ち十倍がよいと思ふ。高低は断面圖でなければ分らぬ。ノルウェーのはたしか四キロに四百米突でした。之に依つて非常に選手が高低がはつきり分ると思ふ。

全日本では第二回の時にあつたが、縦断面でなく横断面です。

廣田 それはどういふつもりか。

高橋昂 どういふつもりか私には判らぬ。

高橋次郎 わやですよ。

宮下 それからワックス——北海道や内地に比較して樺太はどうでした。

秋野 考へやうによつてはこんどはバラフィンが上り用をなすほどには寒くなかつたやうです。

宮下 實際あの日の氣温は

箕輪 本間 とても暑くて困つた。

宮下 みんな厚着して參つたんだね。

栃内 ワツクスはどんなものを使つたか。

秋野 私達はテントを臺にしてバラフィンを少し使つたメルクなんかを持つて行つて。

宮下 何度位です。

秋野 四十二度位です。

栃内 それより低い三十度ならば、どうです。

宮下 中村に三十二度バラフィンを持たしたさうです。

栃内 スキーのバラフィンは温度を書いて賣らなければ駄目だね。

高橋昂 それは科學バラフィンでなければ駄目です。

栃内 上りを利かせるといふことは苦勞しないでせう。

某 當日はとても雪がとけた。北海タイムスに出てゐたやうに氷がとけた。うすく塗つたのは利かない。

南 五十キロの選手は途中で寒くなつて精力を失つた選

手が大部ある。

高橋昂 岩崎選手もその一人だ。

箕輪 上りはバン／＼下りはとても風が強くて寒かつた

本間 山ぢや實際經驗した。

栃内 さうなると汗を出せないことになりますね。

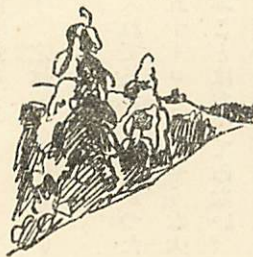
箕輪 私達は競走の時に胸の所に紙を當てた。

高野 大部腹を減らした選手があつた。又腹痛を起したとか。

錦戸 懷爐を入れて走つた選手もある。

栃内 かいろを入れて走るのはい寸困るだらうね。

(以下次號)



.....
雜 錄

◆ 寄贈並に購入圖書雜誌

▲山口十八著 スキー術
 金井勝三郎

▲平尾久太郎著 圖解スキー
 越前貞二

▲寺田 瑛著 最新スキー術
 中田千 畝

▲東幸太郎著 趣味のスキー

▲山 岳 第六年Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、
 日本山岳會

▲北大スキー部創立十五年紀念號

▲山 岳 創刊號
 戸畑山岳會

▲アルカウ趣味 第十八年第二、三、四號
 日本アルカウ會

▲ペデスツリアン 第二十九號第三〇號
 神戸徒歩會

▲會 報 第四號
 日本山岳會

▲山 幸 第三號
 阪神山岳會

▲山と溪谷 第六號

▲山と旅 第一百號

▲蝦夷往來 創刊號
 札幌尙古堂

▲Year Book 1930-31 National Ski Association of America

◆ 寫眞の說明

◆ チャチャヌブリ

本寫眞に就ては近く渡邊成三・佐々保雄兩氏の記事が掲げられることになつてゐます。

(アーノルド・グブラー氏撮影)

◆ ニセコアンヌブリ

(佐藤信義氏撮影)

◆ 菅 平

大雪原の眞中の菅平ホテル裏から見た猫岳(二、一九五米)左と四阿山(二、三三二・九米)右とす。中間の谷は大明神澤です、部落は東組です。

(三 澤 満氏撮影)

◆ 宮前スロープより太郎スロープ南面を望む

傾斜面の上部、木の枝の中から見える黒點は此の三月オリムヒツク行きの選手達が練習したシャンツエです。

(三 澤 満氏撮影)

廣田戸七郎著

スキージャムピング

定價 金壹圓五拾錢
送料 金拾八錢

山と雪

第二號より第六號迄

一部 金 參 拾 錢

山とスキーの會發行

山とスキー (ナンバーク)

一部 金 參 拾 錢

御希望の方は「振替口座小樽八四九五番」へ

山と雪の會

◆「スキー」を研究せられる人、登山に興味を
持たれる方が一人でも多くお読み下さることを
御願ひいたします。

◆「山岳」と「スキー」に関する御寄稿と寫眞
の御惠送をお願いします。

原稿紙は御申越次第お送り致します。

◆原稿は、。を一字とし、行を更めるときは一
字下けること。

定 價

一 部 金 參 拾 錢
六 部 金 一 圓 八 十 錢
十二部 金 參 圓 六 十 錢

*前金御申込か、現金でなければお送りいた
しません。

*御送金はなるべく振替にてお願致します。

昭和六年四月十八日印刷
昭和六年四月廿二日發行
(毎月一回一日發行)

編輯者 長 野 寛

印刷兼 發行者 長 野 寛

北海道札幌市北一條西二丁目

印刷所 札幌印刷株式會社

北海道札幌市北二條西十三丁目

發行所 **山と雪の會**

振替口座水樽八四九五番

昭和六年四月十八日
昭和六年四月廿二日

印刷納本
發行

(毎月一回一日發行)

山と雪

第七號

定價金三十錢



アールベルグ・スキー及び冬山の道具!

(純正ヒッコリー材・ロックバーチ材メーブル材)

ビッケル、EDELWEISS印

(鋼鐵手打製 24.27 $\frac{1}{2}$ ・30.33 $\frac{1}{2}$ cm 保證付)

ルックサック (スイス製布地、絶對防水)

スタィガセン (鋼鐵手打製八本瓜其他)

燃料META及びアルミ炊事具各種

羽毛製シュラフサック及び冬期露營用具

Arlberg-Ski



Hannes Schneider

(商標登録)

三越・伊東屋・白木・野澤屋

合名會社

美満津商店

東京・本郷・赤門前